

自社農園、地産地消の食材を使用し、食を通じた健康経営を実践

## 株式会社堀場製作所,株式会社ホリバコミュニティ

所在地:京都市京都市

従業員数:8,288人

設立年:1945年

業種:各種分析・計測機器の製造販売業

### ○事例のポイント

- ・ 社員食堂では、定食を  $650 \pm 30$  キロカロリーとし、カロリーコントロールをしながら、「美味しく楽しい」食事を提供
- ・ 京都、滋賀で、農家や生産者と連携しながら地元の野菜や魚などの産品を優先して食材に利用、地産地消を実践
- ・ 栽培面積  $21,000 \text{ m}^2$  の自社農園でブルーベリー、野菜やオーガニックコットンなどを栽培し、社員食堂や研修センターで食材や手土産として使用

#### ◆取組の背景

2012年に経営トップによる「こころとからだの健康づくり宣言」を発布。それに基づく「3つの予防」と「4つのケア」からなる行動指針も発表しています。

社内に六人七脚体制の「給食委員会」を設置して、食を通じた健康経営を推進しています。

#### ◆食育活動①社員食堂の状況

社員食堂は吉祥院、鉾立（いずれも京都）、びわこ工場、阿蘇工場の主要4拠点に設置。その概要は以下の通りです。

社員食堂では、昼食の提供が中心ですが、懇親会やパーティも開催しています。特に、琵琶湖を一望できるびわこ工場食堂は、コミュニケーションの場となっています。

#### 社員食堂の概要

	本社	びわこ工場	エステック	阿蘇工場
席数（席）	300	272	118	144
提供食数（食）	600	370	200	140

※本社の300席のうち80席は軽食堂

#### ◆食育活動②社員食堂での取組

社員食堂では、定食は  $650 \pm 30$  キロカロリーとし、カロリーコントロールをしながら、「美味しく楽しい」食事を提供しています。

社員食堂のすべてのメニューにカロリー、塩分量、野菜の摂取量に加えて、食事バランスガイドも示し、個々が健康に気遣って食事を取ってもらう工夫をしています。

また、小麦・卵・カニなど7大アレルゲンや、ベジタリアンやハラールに対応するための肉の表示等も行っています。



#### ◆食育活動③自社農園ブルーベリーファーム

2012年に、琵琶湖の湖西北部に位置する高島市安曇川町に、21,000㎡（東京ドームの約半分）の「HORIBAブルーベリーファーム」を開園しました。農園には540本のブルーベリーのほか、ジャガイモ、サツマイモ、大根、カブラなどの根菜、唐辛子、胡麻など10種類以上の野菜を栽培しています。収穫した野菜は社員食堂や研修センターで食材として使用。ブルーベリーはジャムやジュースに加工、唐辛子と胡麻は七味の材料として活用し、社内販売や来客への土産などに利用しています。

ファームの10,000㎡には、日本古来の品種である和綿（茶綿）を栽培し、収穫したコットンを紡績し、そこからファーム産のタオルやベビー衣料を作り、HORIBAのフィロソフィやおもいをこめて世に送り出しています。ベビー衣料は、経営トップから出産祝いとして、社員に贈って非常に喜ばれています。ファームでは年数回の農作業イベントを開催し、2019年は社員やその家族等約1,400名が参加しました。

ファームの活動は、健康経営のみならず、福利厚生施設、休耕地の活用、自社製品を用いた土壌計測等多くの意義を有し、HORIBAのフィロソフィ発信のメッセージ機能も担う取組となっています。



（ファームの唐辛子と胡麻を使った七味）

#### ◆食育活動④地産地消や地域の食文化を重視

社員食堂の食材は、地産地消も推進しています。びわこ工場では、野菜摂取量を増やしてもらうため、サラダバーを設け、近隣農家から仕入れた新鮮な近江野菜を毎日提供しています。京都の2拠点でも京野菜や舞鶴産の魚など地元の食文化を大切にしています。

#### ◆食育活動⑤大学との共同研究

社員食堂のある拠点に在籍する社員の健康診断の数値が、総じて良いことに着目し、京都の大学の食物栄養科学科と共同で、社員が食堂で取った1年間の食事の内容と、身長・体重データとの相関関係を解析しました。

その結果、食堂を利用する20-30代の男性肥満者のうち、定食購入頻度が高い社員の体重増加率が低いことがわかりました。

分析計測機器メーカーとして、正しい数字を持って検証を進め、施策を実施しています。

#### ◆推進体制

食育に関しては、同社の給食委員会が中心となっており取組を進めています。実務面では福利厚生を担うグループ会社のホリバコミュニティが担当しています。

#### ◆職場や社員の変化

社員の肥満率や血液検査の結果では、社員食堂のある事業所は、ない場所に比べて良い数値が出ており、食堂での取組の成果と考えています。

ファームについては、所属・年代の異なるさまざまな社員・OBが農作業を通じてコミュニケーションすることで、多様な社員間の繋がりができています。それにより、育休・産休中の社員が経験者にアドバイスをもらったり、キャリアやプライベートについて先輩社員やOBに相談したりするなど、想定以上の効果が得られています。